

様々な世代が楽しめる体験型施設について

究理12班 班員 広瀬里奈 西川日菜 ルイスヒロシ

〈探究のきっかけ〉

- ・特定層が楽しめる体験型施設があっても、様々な年齢層と一緒に楽しめるものがない
- 特に3世代で楽しむとなると、私たちに身近な飲食店だったら味の好みが変わったり、気軽に入ってゆっくり話せたりできるようなお店がないということを知ったこと
- ・祖父母の方が食のジャンルやお店の雰囲気などを孫に合わせたり我慢したりすることが多いということを知ったこと
- 3世代全員が楽しめる施設や飲食店を作りたい！

〈目的〉

- ・滋賀県北部に3世代で交流できる施設をつくり、活性化させる
- ・体験を通して家族の仲を深める

○なぜ体験型施設なのか

- ・現在、体験型施設が人気であり様々な人に親しまれている
- ・体験を通じて仲を深める手段として有効
- ・普段はなかなか見られない一面が見られやすいと考えた

○なぜバウムクーヘンにしたか

滋賀県の有名な食べ物といえばクラブハリエのバウムクーヘンだと考えたから

- ・食べ物ならみんな楽しめる◎
- ・滋賀県の魅力も伝えられる◎
- ・柔らかいので幼児、高齢者◎

〈方法〉

- ①夏休みにラコリーナ近江八幡へ聞き取り調査
- ②実際に3世代を呼んでバウムクーヘン作り

〈結果①〉

○質問と返答

Q: どうしたら人気になるのか

- 景色や外観を大切にし、細部までこだわっている

Q: 様々な人に楽しんでもらえるように気をつけている点はあるか

- 子供や外国人に理解してもらえるようにピクトグラムを使用している点

Q: 私たちの「伊吹牛乳を使用したバウムクーヘンを作る」という案についてどう思うか

- 良いと思う。ただ、伊吹牛乳だけではまかなえないので限定店舗にしてならよい

〈考察〉 結果①より

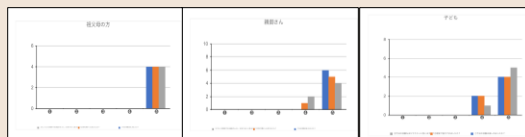
- ・景色や外観を大切にすると人気に繋がる
- ・ユニバーサルデザインだけでなくバリアフリーデザインも取り入れると、様々な世代が安心して楽しむことができる
- ・バリアフリーデザインも取り入れて、より多くの人々を対象にした施設をつくる



〈結果②〉

- ・人手が足りなかったり準備不足な部分が見られたりしたが、アンケート結果よりほとんどの人に満足してもらえた

- ・体験を通じて、家族間、コミュニティ間での繋がりを深めることができた



〈考察〉 結果②より

- ・縦の繋がりでなく横の繋がりももてた
- 家族間だけでなく、コミュニティで仲良くなれ、地域の活性化が狙える
- ・子供の好き嫌いや食わず嫌いを克服できる
- 子どもの成長にもつながり、家族の手助けにもなる
- ・普段はなかなか体験できないことである
- 家族の交流の機会を提供できた

〈結果と今後の展望〉

- ・もっと大きな取り組みにして、より多くの家族での関わりを増やし、様々な世代が楽しめる施設にする
- ・家族間だけでなく、参加者達、さらに滋賀県北部地域の住民での関わりを増やし、地域を活性化させる
- ・限定店舗のような小さい取り組みから始めていく
- 最終的には、バウムクーヘンだけでなく、他の食べ物も作って楽しむことができる体験型施設を作る

〈参考文献・謝辞〉 アドバイスをいただいたラコリーナ近江八幡の皆様、体験に参加してくださった家族の皆様に感謝申し上げます

